

# 北陸経済連合会 女性部会としての提言（要望）

北陸経済連合会女性部会（以下、「女性部会」という）は、2014年度に発足し、北陸経済連合会がその活動に「女性の視点」を取り入れるほか、女性の活躍推進に向けた取組みを行っています。

国際社会では、貧困や飢餓、エネルギー、気候変動、平和的社会など、持続可能な開発のための17の目標と169のターゲットからなる「SDGs」への関心が高まっています。わが国においても、2016年にSDGs推進本部が設置され、同年には取り組むべき優先課題を示した実施指針が策定されるなど、2030年までの目標達成に向けた取組みが始まっています。

当会もまた、北陸地域の持続的な発展なくして国、世界の発展はあり得ないという基本理念のもと、北陸の持続可能な社会の実現に取り組む、そのもとで、女性部会もとりわけ女性・高齢者・若者などの多様な人材が安全・安心な環境で活躍できる地域の実現に取り組んでいます。「SDGs」は、そうした当会の取組みとも基本理念を一にするものでもあります。

北陸が持続可能な開発を達成し、ひいてはわが国の持続可能な社会実現につなげていくためには、政府の力強い後押しも必要です。以上を踏まえ、女性部会として次の事項について要望いたします。

1. 女性部会では、働きやすく暮らしやすい環境が整っている北陸地域への「ひとり親家庭」の移住推進に向けた取組みを行っています。この取組みは、ひとり親を北陸の企業に受け入れることによって経済的に自立し、安定した生活を獲得すると同時に、子供を自然豊かな北陸で育み、教育することで、子供の相対的貧困減少の一助とし、ひいては、北陸地域の人口対策、経済の活性化につなげ、地域力の向上、国力の向上に貢献できるものと考えています。  
今後、行政との連携を深めながらこの取組みを強化していきたいと考えており、ひとり親家庭の北陸移住・定着推進のための支援をお願いしたい。【要望書 17 ページに記載】
2. わが国の将来を担っていく子どもたちやその親を取り巻く環境には、家庭の経済的事情を背景とした生活面等における困難や、後を絶たない児童虐待の問題など、依然として多くの課題が存在しています。こうした状況を改善するためには、性別等にかかわらず一人ひとりが能力を発揮でき、安心して働き、暮らし続けられる社会の実現が必要であり、下記に関する取組みを強化いただきたい。【要望書 16～17 ページに記載】
  - ・ 女性活躍推進に関する施策を総合的に統括する女性省の創設
  - ・ 個々の事情に合わせて多様に柔軟に働き続けられる環境整備への支援（長時間労働撤廃、介護離職の防止、女性のキャリア構築支援、理工系女性人材育成支援の拡充、在宅勤務を含めた柔軟な雇用形態に必要なインフラ構築支援等）

- ・ 女性の社会での活躍を支えるための地域ぐるみによる子育て支援とモデル事業への支援  
 (シングル・貧困女性なども含めたあらゆる女性が活躍できるための官民による多様な形態での学童保育の拡充 [学校施設等の地域への開放とアクティブシニアの活用による地域ぐるみの学童保育等]、保育施設整備の加速化と保育士不足の解消、産後ケアや病児保育体制の整備促進、行政主導によるペアレントトレーニングの実施体制整備等)
- ・ 貧困児童を取り巻く困難な生活環境の改善に向けた支援の拡充  
 (医療費負担への経済的支援、放課後等における学習機会の提供支援、保護者向けのキャリア教育支援・就労支援)
- ・ 児童の安全確保を最優先とした児童虐待への適切な対応  
 (しつけと称した暴力の根絶、児童相談所の体制強化や専門家養成のための実践的な研修の充実、児童相談所と警察・医療機関等との地域を超えた連携強化による適切な対応)

3. セクハラおよびパワハラは、被害者の労働意欲や職場環境を害することはもとより、被害者の人権を侵害する行為であり、決して許されるものではありません。職場内外を問わず誰もが安心して働けるようにするための取組み（現実に即した社員研修や、職場内のみならず取引先等でのハラスメントに対する相談窓口設置等の中小企業等におけるハラスメント対策）を支援いただくなど、セクハラおよびパワハラの根絶に向けた取組みを強化いただきたい。【要望書 16 ページに記載】

2019年8月

北陸経済連合会  
 総合対策委員会 女性部会長  
 浅野 邦子

